

甘楽富岡から元気発信

JICAセミナーで町長ら講演

東京



甘楽富岡地区の事例を発表する茂原町長。右は矢島理事長

国際協力機構(JICA)の海外研修員や派遣前の青年海外協力隊の研修を受け入れている甘楽富岡地区の取り組みを紹介するセミナーが13日夜、東京都新宿区のJICA市ヶ谷ビルで開かれた。「甘楽富岡から日本と世界を元気に」と銘打

ち、茂原庄一甘楽町長やNPO法人自然塾寺子屋の矢島亮一理事長、研修受け入れ農家で設立した「甘楽富岡農村大学校」の白石義行校長、協力隊員としてモザンビークで活動後に同町で就農した高野一馬さんがそれぞれ講演した。

矢島さんは10年余りの活動を振り返り、「地元の人から知恵とアイデアを教わりながら、仲介役を務めてきた。次世代につなげていくことが大事だ」と指摘。

茂原町長は「若い人が来ることで地域の農家に元気が出てきた」と述べ、今後の支援を約束した。

白石さんは「10年続けて地域全体が受け入れるようになった。そのことに誇りと自信を感じる」と成果を強調。高野さんは「出身は宮城県だが、お世話になった人にひかれて戻ってきた。農業を始めた。濃密な人間関係が魅力」と語った。同地区は海外からの技術研修生の受け入れを200

2年に始め、03年からは青年海外協力隊の派遣前技術補完研修にも協力している。